

農作物技術情報 第2号の要約

令和6年4月18日発行

岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	<p>技術対策 育苗管理：極端な高温・低温条件、乾燥・過湿を繰り返さないよう、ハウスの温度・水管理に注意する。 田植え：苗の生育にあわせて、風のない天気の良い日を選んで田植えを行う。 田植え適期の目安は、県南部5月10～20日、県中北部・沿岸部5月15～25日。 直播栽培：出穂が遅くなりすぎないように、播種早限以降で早めの播種を心がける。</p>
畑作物	<p>生育状況：小麦の生育は早まっており、出穂期は2日程度早まると予測される。 技術対策 小麦：赤かび病防除は、適期に2回以上行うことを基本とする。赤かび病の防除適期は、1回目は開花始から開花期で、2回目は1回目の防除時期の7～10日後。出穂期以降は、開花の観察をこまめに行い、開花始と開花期をしっかり把握し、適期に防除する。追肥は、生育ステージを確認して適期に実施する。 大豆：排水対策を早い時期から実施し、適期播種に努める。</p>
野菜	<p>生育状況：施設果菜類の苗の生育、定植後の生育は概ね順調で、順次定植が行われている。葉茎菜類の定植は、ねぎが県南部で平年並みの3月下旬、レタスが高冷地で平年より早めの4月上旬頃から始まっている。 技術対策 施設果菜：朝晩は保温資材・補助暖房を活用して保温に努め、日中は高温になりすぎないように換気に努めるなど、急激な温度変化に注意する。 露地果菜：圃場準備では、高畝の実施や明渠の設置等により事前に湿害対策を行う。 葉茎菜類：露地作では、土壌が適度に湿った状態で早めに圃場を準備し、速やかに播種や定植を行う。雨よけほうれんそうは、播種時の十分なかん水で生育を揃え、ハウレンソウケナガコナダニの防除対策を徹底する。</p>
花き	<p>生育状況：露地りんどうは、展葉期を過ぎ株仕立て作業が始まっている。小ぎくは、8月咲品種の採穂や挿し芽作業が行われている。 技術対策 りんどう：株仕立て、追肥、雑草対策の作業を適期に進める。圃場が乾燥する場合は畝間かん水を行う。 小ぎく：育苗、定植、摘心作業を計画的に進める。定植時や定植後に十分かん水し初期生育を促す。挿し芽後の苗や採穂前の親株は、日中高温になりすぎないように換気に努める。</p>
果樹	<p>生育状況：りんごの生育ステージは、展葉期となり、平年より6日程度早い。 技術対策：今後の気温は高めで推移すると予想されているため、生育の前進化や毎日の気象情報に注意し、低温・降霜が予想される場合は、事前対策を講じる。</p>
畜産	<p>技術対策 飼料用とうもろこし：品種の選定や施肥などの基本技術を再確認し、播種は適切な栽植密度で行う。収量確保には初期生育が重要なため、播種床の形成や雑草・害虫の防除を確実に行う。 乳牛：牛舎環境面の暑熱対策は、農繁期前に実施する。</p>

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>（「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます）

○農薬適正使用：使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。

○農作業安全：事故のないよう、農作業安全に十分留意してください。

次号は令和6年5月30日発行の予定です